

私立 追手門学院大学

取組名称 追手門型エンパワメント・アプローチによる就職支援モデルの展開

取組担当者 副学長 高尾 典史

1. 本学の概要

追手門学院は、1888(明治21)年に大阪偕行社付属小学校として発足した。創設者の高島鞆之助が目指したのは「国家有為の人物の育成」であり、我々が属する民族・社会・組織に対して新しいものを創造し、その発展に大きく貢献し得る人材を意味している。また、追手門学院の教育理念は、「礼節と秩序を重んじ、自主・自由・自立の精神のもと個性尊重の教育を行い、もって創造性と国際感覚豊かな社会有為の人材を育成すること」であり、設立当時より小学校で英語教育を行うなど、国際感覚を磨くことも重視してきた。現在では、幼稚園から大学院までの総合学園として発展し、幼児、児童、生徒、学生・大学院生、教職員の総数は10,000人にも達している。

追手門学院大学は、1966(昭和41)年に経済学部・文学部の2学部からなる大学として設立された。その後、学部・大学院の拡充・改組を経て、現在は経済学部、経営学部、心理学部、社会学部、国際教養学部の5学部からなる文系総合大学となり、大学院は経済学、経営学、心理学、文学の4研究科を擁するまでに発展し、6,300余名の学生が学んでいる。

2. 本取組の概要

就職状況が急激に悪化した「再氷河期」の就職支援として、就職情報の敏速な提供、少人数制ガイダンスと、ピア・サポートを含む個別・グループ別のカウンセリングを強化して就職力を高め、卒業年次にも社会人基礎力・就職基礎能力等を獲得させる取組を継続し、安易な内定辞退や早期離職を防止する。

また、内定取消しを受けた学生や、就職が決まらなかった学生、留年生、学習困難を持つ学生には、学生相談室や学習支援室とも連携し、メンタルケアを含むマンツーマンの就職支援を行う。

さらに、最新の就職情報を携帯メールに配信して就職意識や相談意欲を高めるとともに、学生が就職活動

体験を言語化してデータベース化できるシステムを開発して、学生の気づきと学びを促し、自立型就職力向上を狙うほか、相談の際の資料としても活用する。

一方、学外のサテライトオフィスでは、大学の休業日にも相談できる体制をとるほか、保護者の理解や支援を得るためのセミナーも実施する。

なお、本取組は長期的継続を前提とし、学生の自己評価及び本取組の効果の検証のために、学生の就職力に関する評価尺度を開発する。

3. 本取組の趣旨・目的・達成目標

(1) 取組の趣旨・目的

本取組の名称にもある「追手門型エンパワメント・アプローチ」とは、就職活動の主体者である学生が、個別の相談や対話による支援を通して、多様なサポート資源や教育・訓練の機会を効果的に活用し、社会的自立に向けて自らの資質や能力を高め、就職に関する課題や問題を自主的に解決しながら、納得できる職業決定を果たし、さらに卒業後のキャリアにおいて、安定した就業を維持できるように援助するための計画的・継続的・組織的な取組をいう。そのキーコンセプトとして、次の4点を強調している。

①「追手門型」 建学の精神・教育理念（独立自強・社会有為、自主・自由・自立の精神）の実現を目指す。

②「エンパワメント・アプローチ」 社会的に不利な状況に置かれた人々が、その問題状況を自ら改善するパワーを高め、主体的にその問題状況に働きかけ改善していく過程をさし、個人の生き抜く力を重視し、個人と環境の持つ強さ・能力を引き出し、増強させていく一連の活動を意味する。急激に悪化した就職状況にあっても、学生自身が就職や職業選択という課題に主体的に取り組む力を獲得できることを目標とする。

③「計画的・継続的」 1～3年生前半までの全学的なキャリア教育の中で形成された「キャリア形成力」を基礎に、3～4年生および卒業後の初期キャリア形成期までを視野に入れたキャリア支援を展開する。

④「組織的」 キャリア開発部では、主にキャリア教育支援室が教学（正課のキャリア教育科目）と連携し、1～3年生前半までのキャリア教育を基礎に、3年生後半以降は「社会人の基礎」とも連携し、「ビジネス・マナー」や「コミュニケーション・スキル」「ストレス・マネジメント」等、社会人基礎力・就職基礎能力を獲得するための実践的なガイダンスを、教職協働の支援体制で実施する。

(2) 達成目標

就職力・社会人基礎力の指標として、就職率の向上（10%増）、早期離職率の低減（20%減）を設定して、実施・検証を重ねる。また、本取組で開発する就職情報提供システム、就職体験データベースシステムの活用度、各種相談制度等の利用度や学生の評価、卒業後の就職者の就業状況等を定量的に把握し、継続的な改善・向上の目標値として活用していく。

4. 本取組の具体的内容・実施体制

(1) 取組の具体的内容

「追手門型エンパワメント・アプローチ」は、“Vocational Empowerment by Support & Training”（支援とトレーニングによる職業的エンパワメント）の頭文字を取り、VEST3プロジェクトとして展開する。

(i) VEST1：就職情報・求人情報等の敏速な発信

①就職活動伝言板（シュウカツ伝言板）

学生ポータルシステム、ユニバーサル・パスポートの「掲示板」機能を活用し、就職を希望する学生のメーリングリストを利用して、パソコン（学生用メールアドレス）と登録された携帯電話のメールアドレス宛に、求人情報のほか、学内企業説明会や各種セミナー等の就職支援行事の案内等を、敏速に発信するシステムを開発する。



写真1 学内で開催される企業説明会

②就職活動体験データベース（シュウ蔵）

3年次からの就職ガイダンス、エントリーシート・履歴書の作成、企業説明会への参加、筆記試験や面接等、実際の就職活動体験等を言語化してデータベースに記録・蓄積し、それらを振り返ることによって自己分析を深めたり、筆記試験や面接の対策を図るほか、就職相談の際の資料として活用できるシステムを、すでに本学のキャリア教育で活用しているキャリア体験データベース（キャリア蔵）に加えて開発する（図1）。

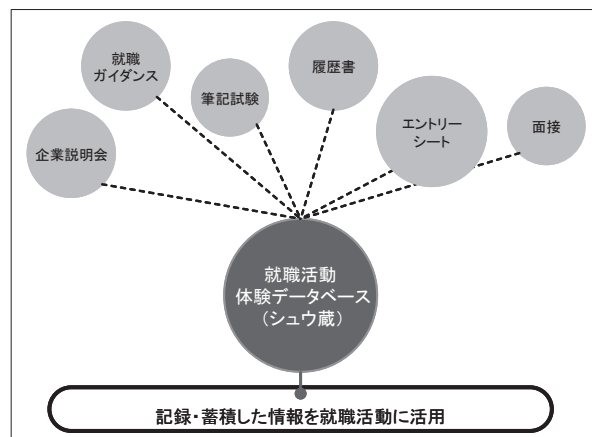


図1 就職活動体験データベース「シュウ蔵」

③就職力チェックリスト

社会人基礎力・就職基礎能力等の概念に基づいて開発された学生の「就職力」評価尺度を、自己点検チェックリストとして就職活動体験データベース（シュウ蔵）に組み込み、必要に応じて自己評価を行った結果を記録し、自己理解や就職相談・キャリアカウンセリングに活用する。

(ii) VEST2：就職支援におけるガイダンス機能の充実

①少人数制グループ・ガイダンス

大人数の就職ガイダンスを補完する少人数制のガイダンス（応募書類作成、筆記試験・SPI対策、面接対策など）を実施し、グループワークの後、グループ・カウンセリングを併せて行う。

②4年生キャリアガイダンス

「社会人基礎力」及び「就職基礎能力」の向上を図り、就職活動・進路決定の早期化の弊害として生じる内定辞退や就職直後の早期離職を防止するため、正課の授業「社会人の基礎」と連携したキャリアガイダンスを4年生の秋学期に実施し、ビジネス・マナー、コミュニケーション・スキル、ストレスマネジメント・スキル等を習得させる。

③留年生のための就職セミナー

留年生に対しては、新年度のスタート直後から、人間関係形成（チーム・ビルディング）を基礎にした就職支援プログラムを実施し、留年生のメンタル・サポートにも配慮しつつ、就職内定を獲得するまでの支援を個別のカウンセリングを中心に行う。

④保護者向けキャリア・セミナー

保護者が学生の就職状況や就職活動について理解し、家庭においても適切な支援を行うことができるように「保護者のための就職ガイドブック」を作成するほか、保護者向けの「就職セミナー」を定期的に開催し、併せて個別相談会を実施する。

(iii) VEST 3：就職支援におけるカウンセリング機能の充実

①休日の就職相談体制

大学のキャリア開発課が閉室する休業日や、休講期間中（夏期・冬期・春期休業、入学試験日等）でも、就職情報の提供や就職相談が受けられるように、休業日や休講期間中にも2ヶ所あるサテライトオフィスを開室し、専門資格を有するキャリア支援相談員を配置して、メンタル・ケアを含めたキャリアカウンセリングを基礎に就職支援を行う。



写真2 サテライトオフィス 茨木

②3年生からの就職相談の活用促進

3年次の春学期に、全3年生が対象となる「就職登録カード」提出に併せて個別相談を行い、就職相談への動機づけを高める。

③4年生「キャリア・サポーター」によるピア・カウンセリング

就職内定を獲得し、就職活動を終了した4年生を、キャリア形成支援・就職支援のメンターとして育成するための研修プログラムを開発・実施し、就職活動体験報告会とリンクさせた就職相談会を開催して、実体験に基づくアドバイス等を提供する。

④サテライトオフィスによるフォローアップ相談

就職が決まらなかった卒業生に対しては、2つのサテライトオフィスが継続して就職相談を行い、求人情報を提供しつつ内定獲得に向けた就業支援を行う。

また、卒業と同時に就職した学生に対しても、初期キャリアでのミスマッチや職場不適應のサインがあれば、来室を促して相談につなげるなど、早期離職の防止をめざしたフォローアップ相談を行う。

(2) 取組の実施体制

(i) 本事業にかかる基幹会議

深刻な就職危機に対応する就職力の向上・離職率の減少を最重要課題とした本取組は、キャリア開発部長を中心とした機動性の高い「就職支援プロジェクト」が推進し、就職支援プログラムの策定、実施状況の点検・評価を行う。

また、「キャリア形成教育プロジェクト」と連携し、現代GPへの採択で全学的体制となったキャリア教育を核とする「追大型キャリア形成支援モデル」との接続を図りつつ、低学年からのキャリア発達に応じたキャリア形成支援を基礎に、学生相談、学習支援、卒業後の就業支援と連携した、より組織的な就職支援体制とする。

(ii) 本事業の推進体制

キャリア開発部キャリア開発課を本事業推進の中心とし、キャリア教育支援室及びサテライトオフィス（大手前・茨木）との協働、さらには学生相談室・学習支援室との連携体制によって推進する。

2009(平成21)年4月、キャリア開発部にキャリア教育に関する事業を教職協働で推進する「キャリア教育支援室」を新設したことにより、キャリア開発課は就職ガイダンスと就職相談（カウンセリング）、求人企業等との連携や接続、就職情報の提供等、就職支援に重点化した事業を、すでに開設したサテライトオフィスと協働して強力に推進する体制が整った。

また、学生相談室には、進路・就職をめぐる課題への取組やキャリア形成の過程で生じる不安や葛藤を、メンタル・ケアに配慮しつつサポートするキャリアカウンセラーが配属されており、メンタルヘルス不調を抱えた学生のキャリア支援及び就職支援をサポートする体制を整えている。

さらに、学習支援室では、留年生、単位修得が極端に少ない学生、学習に困難や課題を持つ学生への学習支援を行っているが、このような学生にとっても就職は大きな課題であり、少人数または個別のガイダンス

・カウンセリングを強化した支援体制を構築する必要がある。

5. 本取組の評価体制・評価方法

本取組では、事業推進の中心となる「就職支援プロジェクト」内に就職支援モデルの評価に係る作業部会を設置し、社会人基礎力・就職基礎能力の概念を基礎に、学生の「就職力」の評価尺度を開発し、学生の自己点検チェックリストとして活用させる一方で、本取組の成果を検証する資料として利用するほか、学生のキャリア形成や就職状況、就職体験データベース情報、卒業生の在職状況、個別相談資料等を総合的に検討する評価体制を構築する。

すなわち、学生の自己評価に基づく「就職力」評価尺度を基軸にして、個々の学生のキャリア形成から就職活動状況、卒業後の在職状況に至るまでの一連の情報を、キャリア発達の時系列に沿って総合的に検討する。これによって、低学年からの計画的・継続的・組織的なキャリア教育によるキャリア形成と、それを基礎にした就職支援、及び卒業後のフォローアップのあり方の検討・改善を図り、就職率10%増、就職後の早期離職率20%減を実現する。

6. 本取組の実施計画等

(1) 実施計画

就職支援モデルの効果を実証するため、社会や企業等の動向を踏まえた幅広い観点から検討するための公開シンポジウムと、専門的な見地から実証するための研究フォーラムを開催するほか、就職状況・在職状況の調査と併せて、本取組の効果を実証するために開発する「就職力」評価尺度の多面的な利用の結果を報告書にまとめ、各方面からの指導・助言を基に本モデルの改善を図る。

(2) 財政支援期間終了後の展開

本取組は、財政支援期間終了後も継続・発展を志向する。本学は、「学生中心の大学」「保護者が安心できる大学」「企業から信頼される大学」を大学ビジョンとして明示し、確実に安定した就職を最重点課題として、学生の就職支援及び卒業生の就職支援を担当する部署の機能を強化して就職率と離職率の改善に取り組む全学的体制を整え、本取組を継続的に推進しつつ効果の検証を行っていく。

(3) 取組内容に関する情報提供の方法・体制

「追手門型エンパワメント・アプローチによる就職支援モデル」の概要については、本学のキャリア教育と接続させた体系的なモデルとして提示し、わかりやすいパンフレットにまとめて刊行・公表するとともに、保護者に対する「就職セミナー」等の中でもその周知を図る。

また、本取組の経過と成果は、毎年開催する「就職支援シンポジウム」で公開し、幅広い視点から点検・改善するための機会を設けるとともに、「就職支援フォーラム」では、高等教育機関におけるキャリア教育と就職支援に特化して、より専門的な観点から分析と評価を行う。

さらに、就職力に関する調査については、その尺度の開発の過程、データの蓄積とその継続的な分析、就職率や早期離職の防止に関する指標との関連を検討した結果を中心にして、本取組の基幹会議である「就職支援プロジェクト」の主要メンバーが所属する日本キャリア教育学会、日本キャリアデザイン学会等においても共同発表し、検討を重ねる。

なお、これらの成果については、事業報告書・研究成果報告書に集約して刊行する。



写真3 第1回キックオフシンポジウム
(2009(平成21)年12月19日開催) 案内